

埼玉県プラスチック資源の持続可能な利用促進プラットフォーム

令和5年度第1回総会

サーキュラーエコノミーに向けて ～他府県での官民連携事例など～

環境カウンセラー（事業者部門）/環境経営士

カムフル株式会社 代表

関根 久仁子

環境をとりまく動向

プラスチックをめぐる動向 1/2

2050年カーボンニュートラル

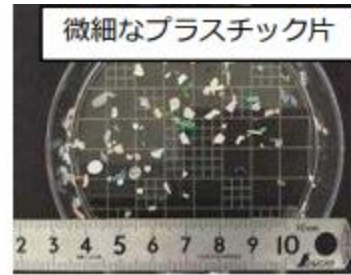
- 家庭ごみの約50%(容積比)がプラスチック製容器包装
- 新型コロナの影響などによりプラスチックごみが増加
- プラスチック廃棄物のリサイクル率は24%にとどまる (国際基準上)
- バーゼル条約改正により、途上国におけるプラスチックごみの輸入規制
→国内資源循環の推進・分別排出徹底によるごみ減量がさらに必要に
- ネットゼロ宣言(2020年10月)
「2050年までに温室効果ガス
排出量を差引ゼロにする」



プラスチックをめぐる情勢 2/2

■海洋プラスチック問題

わずか6年でマイクロプラスチックの量が100倍に(英研究)



■2019年のG20大阪サミットで、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」合意
(現在87か国・地域)

→プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書(条約)策定(2024年末予定)、
プラスチック資源循環に向けた世界的枠組みに

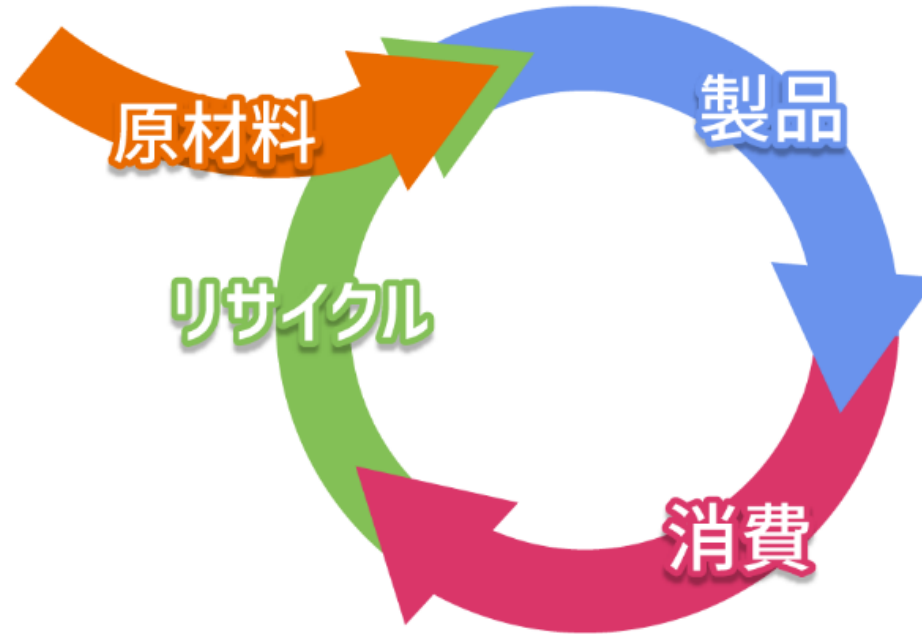
<国別の海洋への年間流出量>



中国：約28%
インドネシア：約10%

- ・アジアが主要な排出地域 (研究者による暫定推計)
- ・多量排出国を含む全ての国が参加する枠組みを目指す

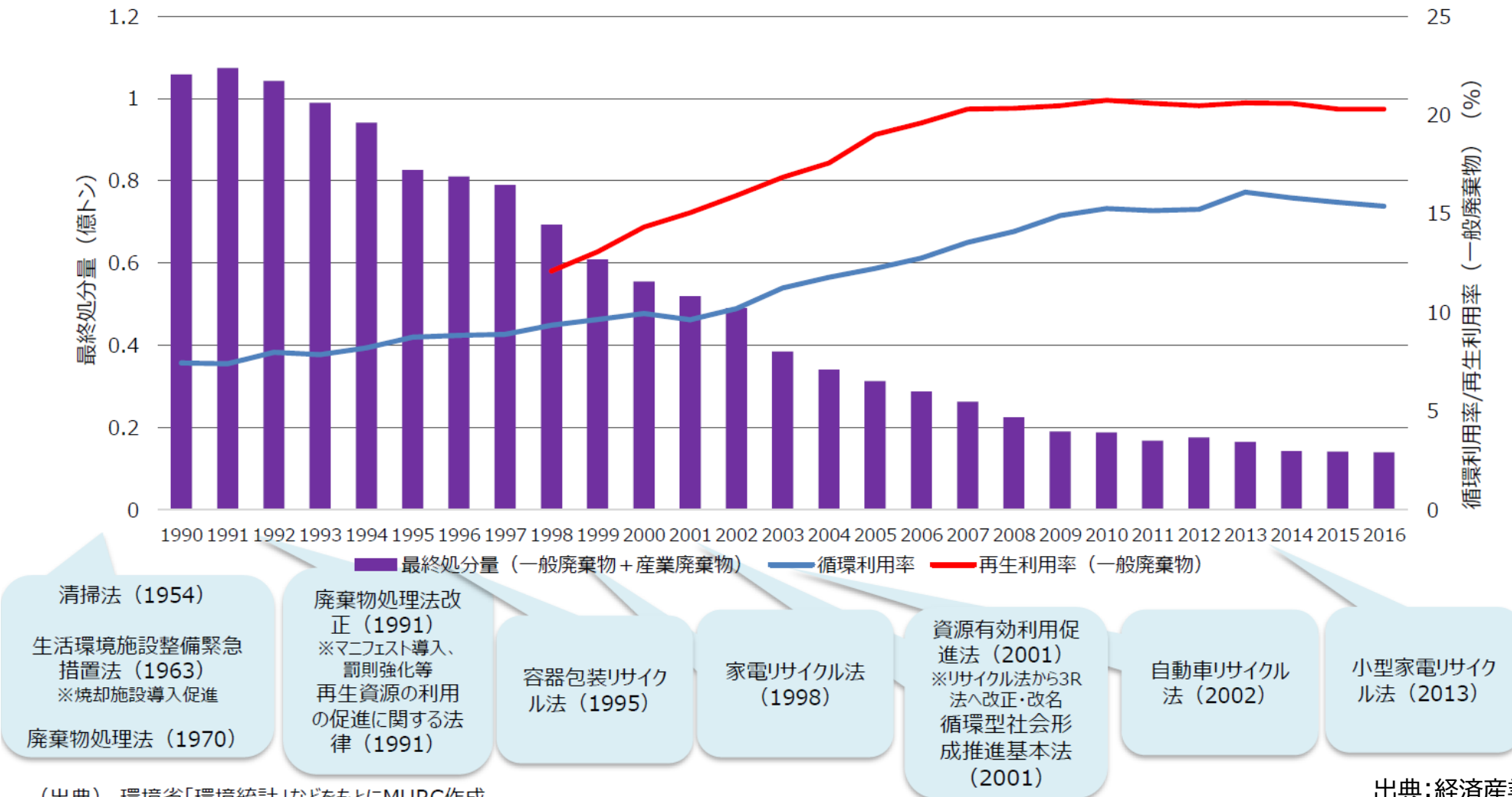
サーキュラーエコノミー(循環経済)



- 従来の3Rに加え、資源投入量や消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながらサービス化等を通じて、付加価値を生み出す経済活動。
- 製品を生み出す段階から、製品の長寿命化やリサイクルしやすい素材の活用を考慮して設計を行うこと、原材料の使用を最小限に抑えること、既にある製品等を最大限に活用し資源を無駄にしないことで廃棄ゼロを目指しています。

循環利用の増加で最終処分場延命化中

一般廃棄物は8.5年(1999年)から23.5年(2021年)、産業廃棄物は3年(1999年)から17年(2017年)に改善



出典: 経済産業省発表資料

プラスチック資源循環促進法

プラスチックのライフサイクル全般での ”3R+Renewable”を進める個別の措置

設計
・
製造



環境配慮設計への転換

環境配慮設計に適合した国の認定製品を、
消費者が選択できる社会へ

販売
・
提供



使い捨てプラのリデュース

小売・事業者などによる使い捨てプラ使用を
合理化、消費者のライフスタイル変革を加速化

排出・
回収・
リサイ
クル



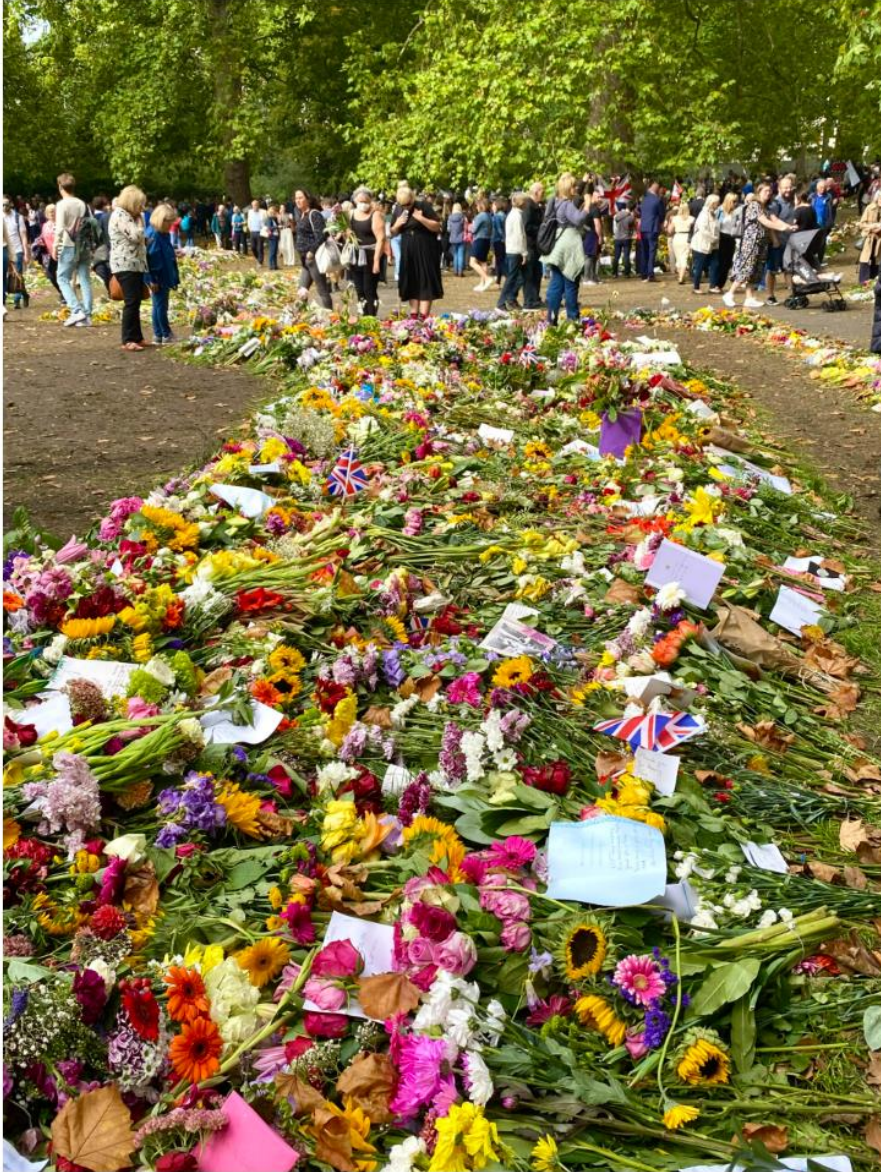
あらゆるプラの効率的な回収・リサイクル

- ・ 市町村の分別収集・再商品化
- ・ 製造・販売事業者による自主回収
- ・ 排出事業者による排出抑制・再資源化

出典：環境省

資源循環の高度化に向けた環境整備・サーキュラーエコノミーへの移行を加速

参考)記憶に新しいエリザベス女王の国葬



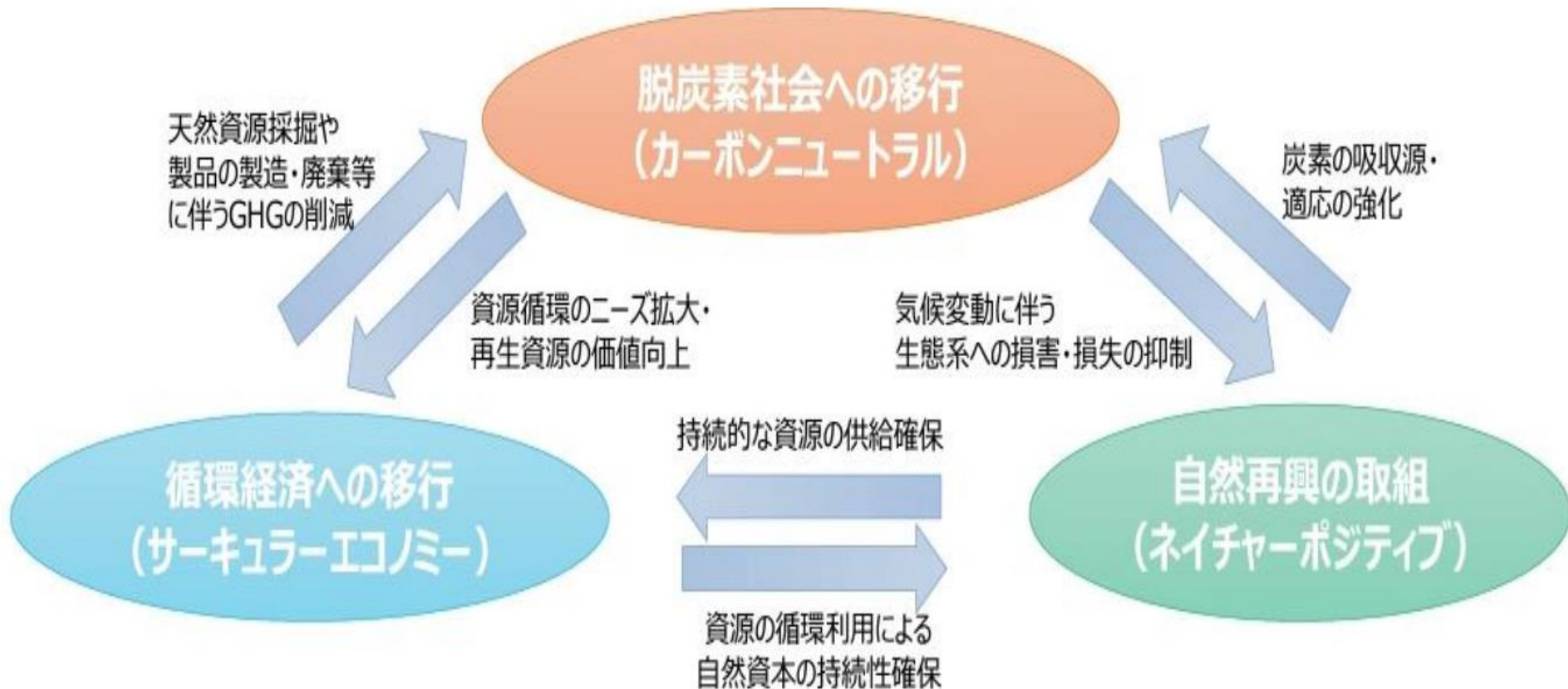
■「花の包装を取り外した状態でお越しく下さい」

「持続可能性の観点から、有機物または堆肥化可能なもののみを置いてください」と呼びかけ。

■手向けられた花は堆肥化され、王立公園の植込などに使用されると発表

統合的な取組の必要性

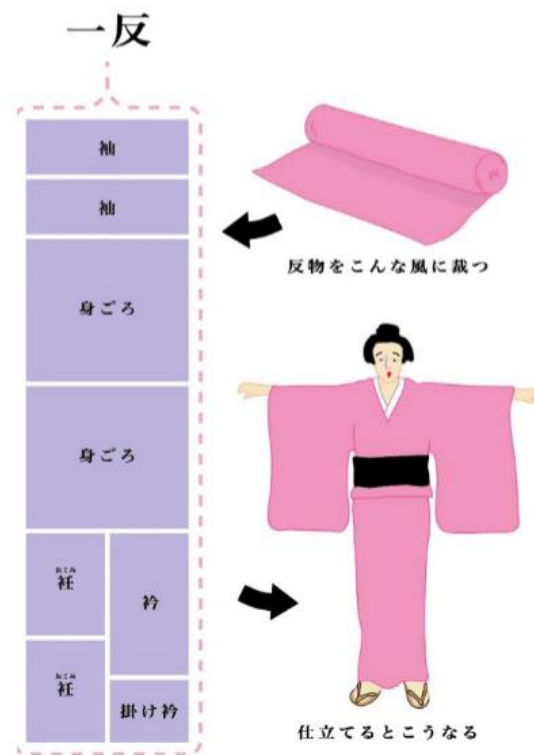
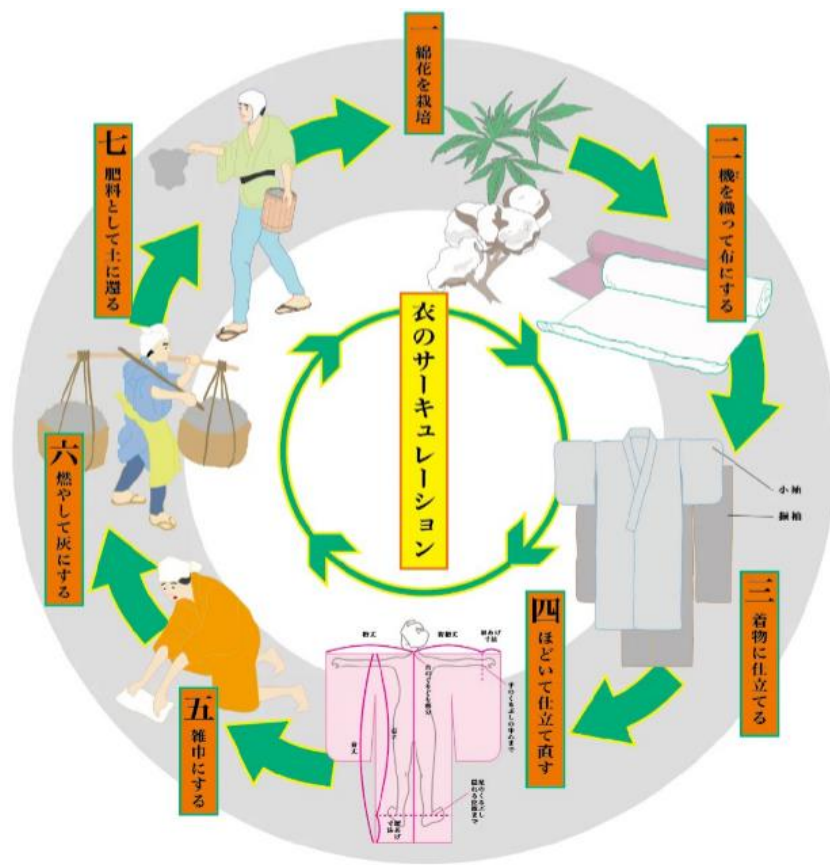
ネイチャーポジティブの取組には、気候変動対策や循環経済への移行とのシナジーもトレードオフもあることから、3要素を統合的に考えることが肝要。



繊維循環の歴史

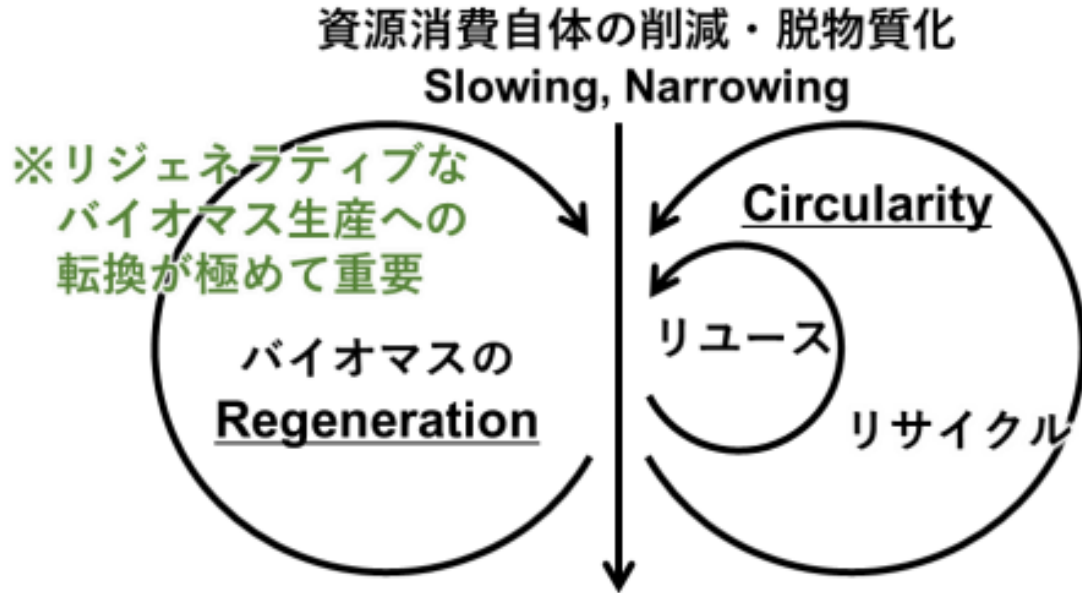
古来から日本人の精神性には循環意識が強かった

江戸時代は綿花や麻などを栽培し、手作業で織り、染めるなどの工程を行っていました。布は手間をかけられた大切な自然からの贈り物として愛着をもって代々受け継がれていた。繰り返し使われ、最後は肥料として利用していた。村落の生活者たちは消費者ではなく生産者としての一端を担うシステムは現代の循環の考え方に通じる「もったいない」の精神が根付いていたと言える。長く使うシステムの中でビジネスが成り立っていた。



進め方のヒント2: サーキュラーエコノミーに向けた優先順位 「リデュース」・「使わない(脱物質化)」を最優先化

まずは資源消費自体の
削減・脱物質化を最優先する



バイオマス資源については、リジェネラティブ
(また、生態系と調和した、持続可能な農業・林業生産)
への転換を進めていく。

削減できなかった製品等はリユース、
なお残る製品等については、
同一製品又は他の製品の原材料として
リサイクルを誘導することで、
資源の循環利用を強力に推し進める。

設計段階から廃棄物が出ない仕組みとすることを前提にしていく

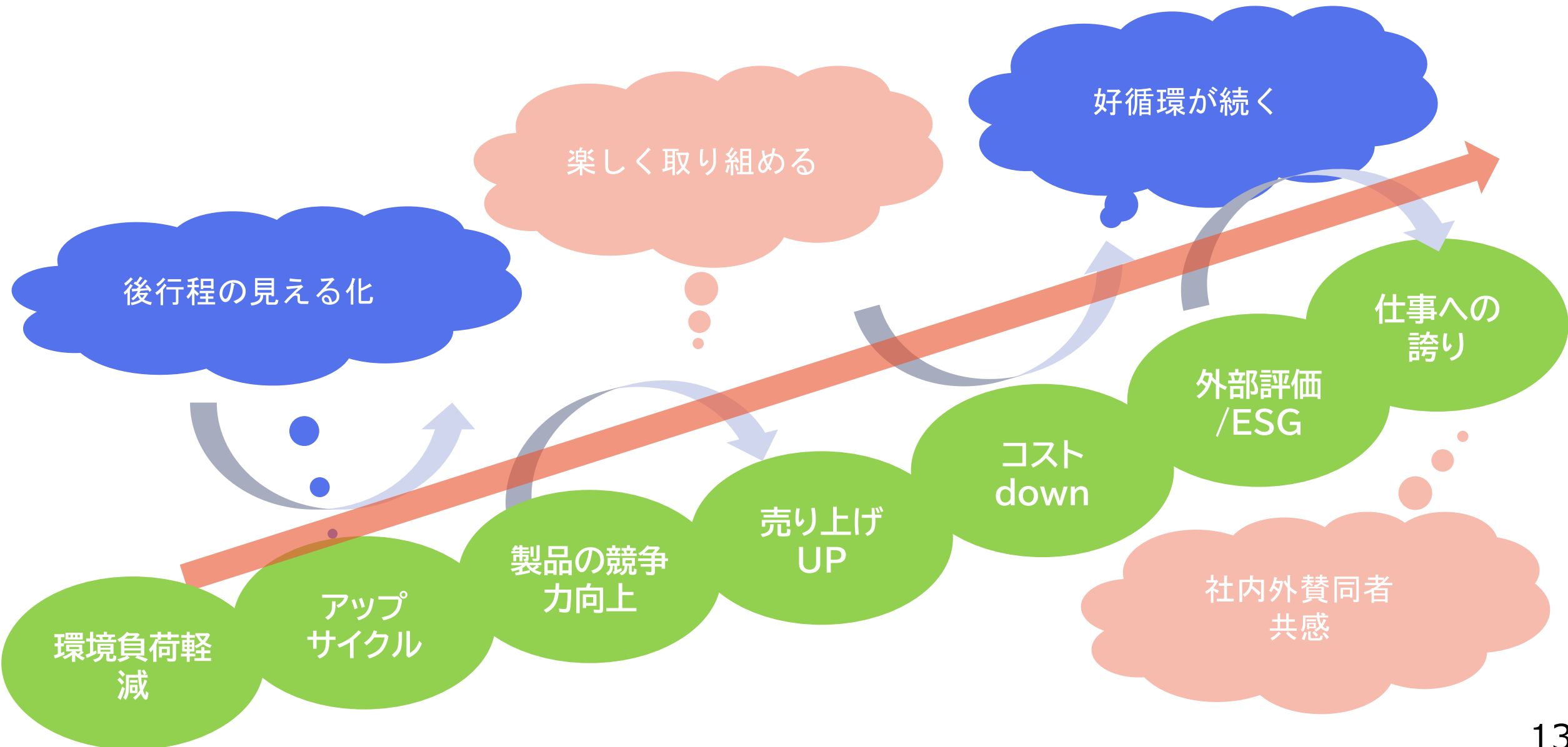
エコデザイン 進め方のヒント

1. 「つくる責任・つかう責任」～**製品の末路まで考えて選ぶ・つくる**
2. サーキュラーエコノミーに向けた**優先順位**
「**リデュース**」・「**使わない**(脱物質化)」を最優先化
3. カーボン・クローズド・リサイクル～持続可能で、**CO2排出実質ゼロのプラスチック利用**を目指す
4. サーキュラーデザイン 「**廃棄物という概念をなくすような製品・サービスづくり**」をする
5. 自治体や国に相談する・市町村への連携を依頼する, 有価性判断
6. 同じ志を持つ事業者・自治体などで**官民連携・協業**する
7. **動静脈連携**
8. **コミュニケーション** ～わかりやすく、生活者の共感を呼ぶ
9. **SDGs主役世代**を巻き込む、一緒に学ぶ

12 つくる責任
つかう責任



プラのエコデザイン～メリット～



後行程の見える化

楽しく取り組める

好循環が続く

仕事への
誇り

外部評価
/ESG

コスト
down

売り上げ
UP

製品の競争
力向上

アップ
サイクル

環境負荷軽減

社内外賛同者
共感

参考) WWFのHPより

サーキュラー・エコノミーによる 解決アプローチ



原材料

本当に必要なもの
だけを生産。
持続可能な代替原料を使用。

製造・使用

使用量を削減
リユース、リサイクル、堆肥化
が可能になるよう設計。

ごみ処理

資源として再利用できる
ようにすることで"ごみ"の
総量を減らし、適正に処理。

官民連携事例：

せとうち広島GSHIP

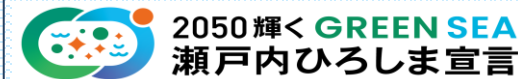




海洋プラスチックごみゼロ宣言

～みんなで守ろう、ミライへ。美しく恵み豊かな瀬戸内海を～
「2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」

GSHIP参画会員 ※R5.6.30時点：市町含め、110社・団体



<p>●清涼飲料業界団体 (一社)全国清涼飲料連合会</p>	<p>●金融関連 東洋証券(株)</p>
<p>●素材メーカー (株)カネカ、(株)ダイセル、日本製紙(株)、三菱ケミカル(株)</p>	
<p>●製造メーカー (株)エプコ、(株)エルコム、カシオ計算機(株)、川上産業(株)、(株)晃祐堂、(株)シンギ、(株)ジャパックス、大日本印刷(株)、東罐興業(株)、凸版印刷(株)、日榮新化(株)、NISSHA(株)、(株)パイロットコーポレーション(株)、プロトリーフ、マツダ(株)、(株)メンテックワールド、(株)吉村、(株)LIXIL、(株)リコー</p>	
<p>●小売・流通 イオンモール(株)、イオンリテール(株)中四国カンパニー、(株)イズミ、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)そごう・西武(そごう広島店)、(株)パルコ(広島店)、(株)ファミリーマート、(株)フレスタ、(株)フレスタホールディングス、(株)ポプラ、(株)ローソン</p>	
<p>●化粧品、消費財メーカー (株)ヤマサキ、ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング(株)</p>	
<p>●メディア (株)中国放送、(株)テレビ新広島、広島テレビ放送(株)、(株)広島ホームテレビ</p>	
<p>●生活関連サービス業 ウォータースタンド(株)、(株)Ethical.s、(株)ダスキン 中国・四国地域本部、ドックライク(株)、(株)ネクサス、(株)プロジェクトデザイン</p>	
<p>●ICT関連 ウミトロン(株)、(株)KDDI 総合研究所、(株)フィッシュフレンズ、(株)フォーステック</p>	
<p>●デザイン関連 (有)イマージョン、タメンタイ合同会社、(株)ユニバーサルポスト</p>	

<p>●食品・飲料メーカー アサヒ飲料(株)、味の素AGF(株)、(株)伊藤園、大塚製薬(株)、カゴメ(株)、カルビー(株)、キリンビバレッジ(株)、コカ・コーラシステム、(株)サクラオブルフリーアンドディステイラー、サッポロビール(株)、サントリー食品インターナショナル(株)、宝積飲料(株)、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)</p>	
<p>●リサイクル関連事業 遠東石塚グリーンペット(株)、(株)金本商会、テラサイクルジャパン(同)/Loop Japan(同)、西日本環境開発協同組合</p>	
<p>●環境保全関連 NPO法人自然環境ネットワークSAREN、(一財)広島県環境保健協会</p>	
<p>●消費者団体 (公社)広島消費者協会、広島県生活協同組合連合会</p>	
<p>●国際関係団体 国際機関日本アセアンセンター、広島アセアン協会</p>	<p>●任意団体 Golf絆の会</p>
<p>●宿泊事業者 ANCHOR HOTEL FUKUYAMA、瀬戸内隠れ家リゾート、ヒルトン広島、(株)ホテル清風館、尾道国際ホテル</p>	
<p>●商事事業 (株)近畿日本ツーリスト商事</p>	<p>●海運・陸運業 (株)中国 SHIPPING エージェンシーズ、広島電鉄(株)</p>
<p>●市町 広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、神石高原町 (県内23市町全て参画)</p>	

対策の方向性

本県のみならず、瀬戸内エリア等への広域展開を図っていく。

①プラスチックの使用量削減

- ワンウェイプラスチックの削減や、代替素材（生分解性プラ・紙等）の開発・普及促進
- プラスチック資源の3R + Renewableの拡大、高度化等



「Loop」や「リフィルステーション」

②プラスチックごみの流出防止

- 新機能リサイクルボックスの普及促進・ナッジを活用した周辺の散乱防止に係る効果検証の実施
- IoTを活用したスマートごみ箱の設置等



「SmaGO」



新機能
リサイクルボックス

③プラスチックごみの清掃・回収

- 企業、清掃団体等と連携した効果的な清掃、回収
- 参画会員と地域の清掃団体・市町等の清掃活動とのマッチングや一元的な情報発信等



④情報の収集、発信、共有

- HPやイベント等での情報発信（先行事例、プラットフォームでの取組、参画企業等の取組等）
- 環境学習の実施等

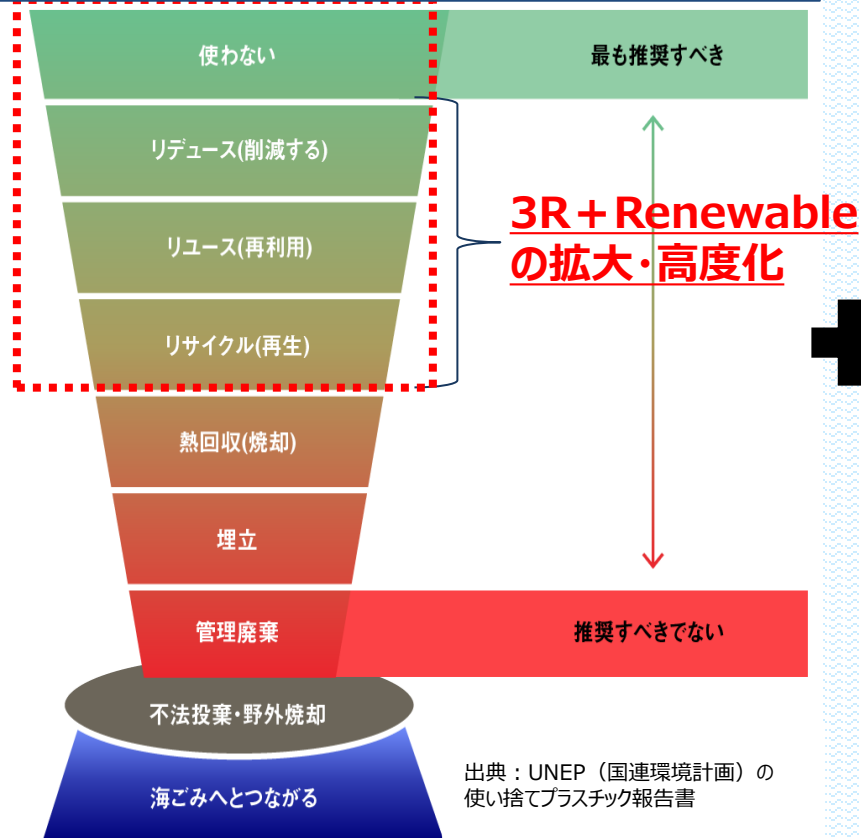


「海ごみ統一情報発信サイト」

● GSHIPの枠組みも活用しながら、サプライチェーン全体で取組を推進

1. プラスチック資源循環促進法の施行を踏まえ、そもそも回避可能なプラスチック使用を合理化し、**使用量の削減を図るとともに、流出防止に向けた総合的な仕組みづくり、消費者を巻き込んだ活動**につなげていく
2. シャンプーなどの生活系プラ製品や、ペットボトル、食品容器包装等について、価値ある資源として捉えた上で、**新たなリサイクル、リユース等の循環的利用の高度化に向けた取組を加速化**していく

取組の柱（次世代型 3R + Renewable）



取組の視点

- A) カーボンニュートラルにも貢献**（再生素材、バイオ素材への転換）
- 使用後に燃焼することなく素材として再生
 - 素材をプラスチックからCNなバイオ・紙へ転換
- B) IT・AIなどデジタル技術の活用**
- 製造・流通だけでなく使用後も含めて物の流れを電子で見える化（トレーサビリティ）
 - 使用済製品を電子マネー（ポイント還元等）で価値あるものとして回収
- C) プラスチックに資源としての付加価値を与え
資源自律経済に寄与**
- 使用済プラスチックは、「ごみ」ではなく、価値ある資源として、価値を与えて、無理なく回収・・・消費者の行動変容を促すような取組


①プラスチックの使用量削減

方針

- CNも踏まえた次世代型3R+Renewableの拡大と高度化、プラスチック代替素材の利用促進
- 動静脈連携による資源循環経済（CE）の構築化

取組内容

●リーディングプロジェクト支援補助金を活用した実証事業の実施

- ワンウェイプラスチックの削減や代替素材の利用促進を図る事業  ※画像はR4年度事業
- 新たな仕組みによるプラスチックの循環的利用の高度化に向けた事業（リユース、リフィル、リターナブル、水平リサイクルの実装化等）

●参画会員が取り組む事業との連携、各種支援

- 参画会員によるプラスチックの使用量削減やCEの推進に向けた取組について、広報や関係諸機関との連絡調整に係る支援
- 多様なステークホルダーとの連携・共創化に向けた機会の創出 等


●国（経産省や環境省）、CLOMA、他府県との連携事業の実施

- 環境省「連絡調整会議」（構成員：環境省及び瀬戸内海関係府県）との連携 等

②プラスチックごみの流出防止

- 使用済プラスチックに付加価値を与え回収
- 使用済プラスチックの回収阻害要因を排除
- ポイ捨て防止に新たな動機付けを付与

●参画会員等と連携した屋外回収拠点の多様化に向けたモデル事業の実施

- 屋外でのごみ回収拠点の多様化によるポイ捨て対策及び流出防止対策の推進  (例：消費者に行動変容を促すような仕掛けを有する回収拠点に係る効果検証 等) (出典：神戸市役所HP)

- 分別や啓発メッセージの要素を取り入れた回収拠点に係る効果検証の検討、実施

●河川ごみ散乱状況調査の実施

- 河川等に散乱するプラスチックごみの量や組成についてモニタリング調査を実施

●マイクロプラスチック（MP）の流出実態の調査

- 下水処理場及び公共用水域（海域及び河川）でのMPの量とその種類を把握・分析
- 微細MPに係る広島大学との共同研究

採択者名 (五十音順)	事業概略	区分
1 (株)ダイセル	<p>【海洋生分解性プラスチックによる代替素材製品の普及促進・リサイクル】 海洋生分解性を有する酢酸セルロース樹脂を使用した宿泊アメニティ（歯ブラシ）の更なる普及促進とともに、新たに、カトラリー等プラ新法指定品目対象品へ用途を拡大。併せて、使用済製品の回収及び回収物のカキ養殖パイプ等への再利用を検討等</p>	継続
2 東罐興業(株)	<p>【紙容器への代替素材化及び紙資源循環モデルの構築】 プラスチックごみゼロに向けた紙容器への転換促進とともに、循環社会の実現に向けて集客施設やイベント等での紙コップ洗浄機を用いた紙容器のリサイクルモデル（紙から紙へ／CUP TO CUP）を構築</p>	新規
3 NISSHA(株)	<p>【飲用容器のシェアリングサービスによるワンウェイプラスチックの削減】 飲食店等で使用されるワンウェイプラスチック容器の削減に向けて、デジタル技術を活用した容器のシェアリングサービス「Re&Go」を飲食店等に導入し、地域企業・団体と連携しながら地方都市における事業の最適化、市場受容性等を検証</p>	新規
4 三菱ケミカル(株)	<p>【飲料ラベルの水平リサイクル実現に向けた資源循環モデルの構築】 産学官民連携による、飲料ペットボトルの3分別回収の促進やプラスチック資源のリサイクルに対する啓発活動の実施とともに、新たに、水平リサイクルラベル品の市場投入を図り、小売等と連携した回収・選別に係る効果を検証</p>	継続
5 ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング(株)	<p>【プラスチック空容器回収プログラム等による資源循環モデルの構築】 「UMILE（ユーマイル）」（※ポイント還元）を活用し、プラスチック空容器（今年度は、ユニリーバ自社製品だけでなく、新たに、同業/異業種の空き容器も回収対象品目に拡大）の回収及びリサイクルを軸とした産官学・異業種連携による地域資源循環モデルの構築</p>	継続

③プラスチックごみの清掃・回収

方針

- 参画会員との連携による効果的な清掃活動の展開
- 参画会員とのマッチング強化

取組内容

- **参画会員等と連携した清掃活動の実施**
 - GSHIP主催又は他団体の活動との共催による清掃活動の実施
 - より参加しやすく、楽しみながらできる清掃活動、環境学習にもつながる+αの取組の検討、実施
 - 離島・無人島等のホットスポット・アクセス困難場所での清掃活動の実施に係る支援（※瀬戸内オーシャンズXとの連携）



- **参画会員と地域の清掃団体・市町等の清掃活動とのマッチング**
 - 各地域で予定されている清掃活動の実施計画を情報収集及び集約、一覧化
 - 申込希望のGSHIP参画会員とマッチング
 - GSHIP専用HPを通じた一元的な情報発信

④情報の収集・発信・共有

- 行動経済学の知見も活用しながら、世論醸成に向けた効果的な啓発・情報発信を検討、実施

- **海洋プラごみ削減に向けた消費者（県民）の行動変容チャレンジ事業**

- 海ごみ問題の啓発・情報発信に係る企画実施



- **環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」を活用した事業実施**



※画像はR4年度の「LBOV推進事業」の様子

- 「環境の日」ひろしま大会（6月）との連携事業
- **Webサイトのコンテンツ整理・拡充 等**

※情報発信・啓発は、テーマ①～③の内容とも連動した取組を検討、実施

広島・瀬戸内ならではの視点

- 小売店等のエンドユーザーに近い業種や県内全市町等、**多様なメンバーが参画するGSHIPそのもの**
- **瀬戸内海は閉鎖性海域**のため、外海からの海洋ごみの流入が少なく、各施策に応じた**成果を可視化しやすい**
- 国は瀬戸内エリアを海洋ごみ対策の重点地域として捉えており、瀬戸内オーシャンズX等の広域連携も可能
- 製造業やその他サプライヤーなどが数多く立地
- CNをはじめ、環境ビジネスに係る各方面でのネットワーク構築がなされている。

アドバンテージ・プレゼンスカを確保

広島県 (GSHIP事務局)

- 本県を**実証フィールドとする事業への支援** (補助金等による支援, 市町との連絡調整, 企業間連携支援, 広報等), 事業実施及び効果検証
- 海ごみ対策に加え**廃棄物リサイクルや環境ビジネスなどの庁内関係部局の支援制度等の紹介, 各種連絡調整**
- **参画会員同士のマッチング支援**
- 県の施策や参画会員が行う取組との連携内容等を協議, 検討する場の設定 (WGやPT会議等)
- **県民及び瀬戸内周辺府県, 瀬戸内オーシャンズXへの取組内容, 先進事例等の共有, 情報発信**

企業・団体

- **実証フィールドとしての本県の活用** (事業の検討, 実施及び効果検証等)
- 本県のWGやPT会議, その他ビジネス交流会等を通じた情報の共有, 収集, 交換
- 参画会員に対する提案や意見, 自治体への要望等
- 自主的な取組内容についての情報提供 (プラットフォーム参画会員への情報共有) ⇒取組の方向性や内容, 現状や課題等
- 各社・各団体等での取組の更なる推進

取組双方への施策・反映

県民 (消費者)

様々な取組に対して共感, 受容, ジブンゴト化し, 行動変容を促進 ⇒ 海洋プラごみゼロへ

官民連携事例：

東京サーキュラーエコノミー推進センター

東京サーキュラーエコノミー推進センター

2022年4月に東京都環境公社に開設され、都民と事業者持続可能な資源利用に係る情報発信や取組を支援



みんなで変えていく、明日の環境と経済。

T-CECでは、サーキュラーエコノミーの実現に貢献することを目的に、都民、事業者、関連団体、自治体と連携しながら、持続可能な資源利用に関する情報発信やシンポジウムの開催、サーキュラーエコノミーの早期導入にあたる具体的な取組への支援、多様な主体による実践的な行動変容活動への支援等を行っています。

相談・
マッチング
事業

シンポジウム

ワンストップ

補助事業

CEビジネス
創出後押し

東京サーキュラーエコノミー推進センターHP

サーキュラーエコノミーを身近に感じてもらえる取組を、Webサイトを通じてわかりやすく発信しています。

<https://www.tokyokankyo.jp/circular-economy/>



サーキュラーエコノミーへの シフトにはみんなの取組が必要。

世界全体で、プラスチックに限らずあらゆる資源の循環を図り、廃棄物ゼロを目指すサーキュラーエコノミーによる脱炭素社会への移行が注目されています。そのためには、設計・製造する側、製品を提供する側、消費する側、リサイクルする側それぞれが自ら行動を変えなければ実現できません。つまり、都民と都内の事業者、自治体が一体となり取り組んでいくことが必要です。





© (公財) 東京観光財団

持続可能な将来のために、 資源循環はますます重要。

2050年「カーボンニュートラル」即ちCO₂排出実質ゼロという世界共通のゴールに向けて——。東京都では、「ゼロエミッション東京」を宣言し、具体的な取組などをまとめた戦略を策定しました。その中で、CO₂削減に貢献するプラスチックや食品ロス対策などの資源循環における取組の強化を図っています。

相談・マッチング事業

- ▶ 都内の事業者・自治体等を対象に、東京サーキュラーエコノミー推進センターがサーキュラーエコノミーの導入を支援。
- ▶ 使い捨てプラスチック・食品ロス等の削減に向けたアドバイスから、東京都環境局が実施する補助制度などのご紹介、他事業者とのマッチングにいたるまでワンストップでサポート。

●情報発信例

- ▶ 大型商業施設へのリユース容器導入支援
- ▶ 2R(リデュース・リユース)の新事業を検討する企業に対する技術的な助言
- ▶ プラスチックのケミカルリサイクル先の相談(自治体) 他

●令和4年度相談件数の実績

※令和5年2月28日時点

業種	個人	企業	行政	団体・他	合計
件数	4	24	2	3	33

サーキュラーエコノミーに取り組もうとする都内の事業者・自治体等を対象に、東京サーキュラーエコノミー推進センターが導入を支援します。使い捨てプラスチック・食品ロス等の削減に向けたアドバイスから、東京都が実施する補助制度などのご紹介、他事業者とのマッチングにいたるまでワンストップでサポートしています。



事業者



自治体



都民

東京都環境公社

(東京サーキュラーエコノミー推進センター)

サーキュラーエコノミーへの転換・資源循環を促進

補助事業を探しているけど、あるのかな？



そんな事業者、自治体等のみなさまを支援いたします！

資源循環に関わる事業をしたいんだけど・・・



使い捨てプラスチック・食品ロス等の削減に向けたアドバイスから、

東京都環境局が実施する補助制度などのご紹介、他事業者とのマッチングにいたるまで

ワンストップでサポートしています。

令和4年度東京サーキュラーエコノミーシンポジウム

- ▶ 事業者と自治体の連携促進をテーマとし、有識者の特別講演、事業者と自治体の連携によるサーキュラーエコノミーの取組事例を発表(令和4年度はエコプロオンラインで開催)

開催概要とプログラム

主催：
東京都環境局
公益財団法人東京都環境公社

開催期間：
令和4年11月25日10時から
12月16日17時まで

対象：
サーキュラーエコノミーに
関心のある方

参加費：無料

講演タイトル	登壇者	講演要旨
ネットゼロ社会実現のための水平リサイクル (特別講演)	NPO法人ごみじゃぱん 石川 雅紀 様	プラスチックのリサイクルとネットゼロ社会の関係、製品のリサイクルにおける炭素歩留まりの重要性を講演。
『パートナーシップで循環経済を実現しよう』 ～官民連携で取り組むヒント～ (特別講演)	環境カウンセラー 関根 久仁子 様	循環経済の実現において、官民連携のメリットや取組を推進する上でのヒント、推進プロセスなどを紹介。
自治体とのペットボトルの資源循環の取組 (事例発表)	一般社団法人全国清涼飲料連合会 加治木 浩則 様	自治体と連携して、ペットボトルの資源循環の実証活動や教育啓発をすることで行動変容を促す取組を紹介。
たのしくハブラシリサイクル！について (事例発表)	ライオン株式会社 中川 敦仁 様	プラスチック資源循環社会への対応として、使用済みハブラシの回収・再生プログラムを紹介。
みんなでボトルリサイクルプロジェクト (事例発表)	ユニリーバ・ジャパン・サービス株式会社 山本 さや香 様	日用品プラスチック容器包装の資源循環を目指す、「みんなでボトルリサイクルプロジェクト」を紹介。
官民参加による環境啓発事業の取組について (事例発表)	調布市 環境部 平原 孝允 様	ユニリーバ・ジャパン株式会社の協力により実施した「ポタニカルライトキャラバン」等の取組を紹介。

サーキュラーエコノミーの実現に向けたモデル事業

- ▶ 地域密着型サーキュラーエコノミーの実現に向けて、資源循環に係る事業実績や知見のある都内の企業や業界団体等と連携して、資源循環に係る試験的な事業や仕組みづくり、制度の構築等に資するモデル事業を実施。
- ▶ 事業実施方法: 事業を公募し、選定事業実施者と協定締結。
- ▶ T-CEC負担額: 対象経費の1/2、1事業100万円上限

令和4年度 サーキュラーエコノミーの実現に向けたモデル事業 採択5事業

オフィスビル向け弁当、
ドリンク販売での
リユース容器使用に
よる資源循環実証事業

株式会社Circloop
(サークループ)



リユース容器で
オフィスビル向け
弁当・ドリンク販売、
シェアレストランで
洗浄する実証事業の
実施

地域密着型協働
プラスチック
資源循環促進事業
自治体とのペットボトル
の資源循環の取組

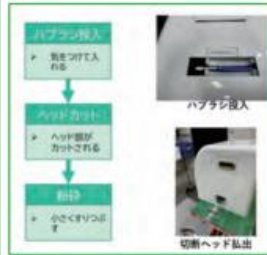
一般社団法人
全国清涼飲料連合会



大田区内にペットボ
トル3分別用のリサ
イクルステーション
等を設置した実証
実験や啓発活動

たのしくハブラシ
リサイクル!

ライオン株式会社



生活者が回収拠点で直接
投入できる歯ブラシ前処
理機の開発、板橋区主催
イベントでの回収、回収
物による再生実験の実施

使用済みストレッチ
フィルムのアップ
サイクルブランド・
プロジェクト

株式会社
TRIFE DESIGN



運送業や製造業等で使用し
たストレッチフィルムを回
収、素材開発から販売に至
るまで全ての工程を国内で
行アップサイクルブラン
ド・プロジェクトの構築

ヴィーガンレザー
バッグ等の
プロモーション実施

ヘリテッジ株式会社



廃棄予定のリンゴや
環境負荷の低いサボ
テン等を利用した人
工皮革(ヴィーガンレ
ザー)の製品プロモ
ーション企画・実施

